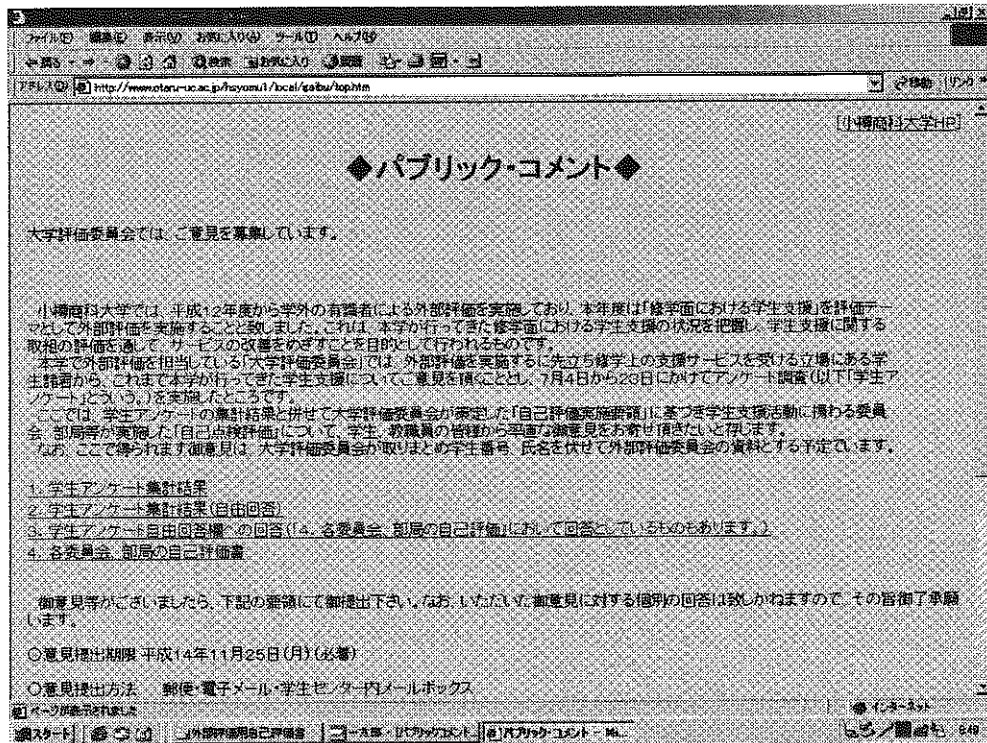


**「『修学面における学生支援』自己評価」
及び「修学面における学生支援に関する
調査結果」に関する意見の募集の結果に
ついて**

「修学面における学生支援」自己評価及び「修学面における学生支援に関する調査結果」について、平成14年11月5日～25日まで小樽商科大学ホームページに掲載し意見を募集しておりましたが、次のとおりご意見をいただきました。



企業法学科3年 女性

パブリックコメントを読ませていただきました。その中から、いくつか意見や疑問があります。

・キャップ制について。

学受けもしないのに届だけ出す、という履修者を減らせるという点は良いと思います。しかし、決定的にキャップ制について説明不足だと思います。学生側には「単位に上限がある」という点だけが先行しています。

キャップ制と無関係な私にも、それは感じます。自己評価の中でも、その対策について明確な意見が述べられていなかったように見えました。

また、今回は教育面が対象外と述べられていましたが、そこも大切ではないかと思えます。教養教育の重視と言いながら、対象から外しているのはどうかと思えます。

他に、学生の意見の中に「科目が偏りすぎている」とありました。私もそのとおりだと思います。キャップ制という制限を置くのならば、できるだけ科目選択に不自由しない環境も整えるべきだと思います。

1年目にして多くの面を対象にするのは困難かもしれませんが、いかがでしょうか。

ところで科目の偏りですが、キャップ制前からそれは感じていました。特に企業法の専門科目です。1年は本当に少ないのに、2→3→4年と進むにつれて、量も難易度も急増しています。他学科はそうでもないと聞いています。せめて1年次配当を増やして欲しかったです。

・ゼミについて。

ゼミ選択が原則必修となつたらしいですが、私は賛成できません。例外もあると聞きましたが、そうだとでも「強制」という形はどうかと思います。妥協してどこかのゼミに入らせても、やる気のないゼミ生が増えるだけである気がします。ゼミに入るかノンゼミにするかは、学生の自由だと思います。

また、必修になったことについても、はっきりとした説明がなされていません。それは何故なのか、疑問に思いました。

制度の利益・不利益を直に受けるのは、学生側です。制度を変更するのなら、説明を明確にすべきではないでしょうか。

・後期科目の履修登録について。

学生の意見に賛成です。前期や通年科目は、オリエンテーション後にどれを取るか決められます。しかし、後期に関しては、大袈裟に言えば「賭け」のようなものです。受けて「失敗した！あの科目に直したい」と思っても、前期のように変更できないので、2（或いは4）単位をふいにせざるを得ない事態も考えられます。

大学側は、履修を2度に分けると混乱を招くと述べられていましたが、そうはならないと思います。もしどうしても不可能ならば、シラバスの後期科目欄を詳細化するという措置を取ってはいかがでしょうか。

自己評価を読みましたが、大学側の検討に積極性が見られないように感じました。

企業法学科3年 女性

●アンケート結果全体

- ・大学側の回答が抽象的である。もっと具体的に答えるべきである。
- ・学生側の過大な要求として処理されている問題があるが、大学側は学生の要求にもっと真摯に答えるべきじゃないだろうか。学生側は不満を感じるからその様に要求するのであって、それに対して安易に「過大な要求」と片付けてしまっている感がある。
- ・学生センターがまだ十分に機能していない感がある。学生センターをもっと利用しやす

いように改善していくべきだ。

●シラバスについて

- ・シラバスは昼間主・夜間主で分けてしまっても良い。
- ・自宅PCに所持者にとって、シラバスはCD-R化された方が良い。(自宅PC不所持の学生には従来通りのシラバス配布) CD-R化の為に学生全体に自宅PCの所持・不所持のアンケートをとるべきである。
- ・シラバスへの不満の多さに対し、来年度から早急に対策を講じるべきだ。

●学生支援の取り組み状況について

- ・新入生オリエンテーションは日程など改善の余地がある。一番学生にとって本学学生支援のあり方を説明される機会であるが、入学式・入学式翌日という大変疲れる日程に行われるのはあまり好ましくない。別日程を予め用意しておくべきである。
- ・窓口による学生指導・指導教官制は十二分に知られていない。もっとそういう制度があるという事を学生に説明・アピールするべきだ。
- ・指導教官制で、教官1人が担当する学生が100人という割合はあまりに不釣り合いである。制度を十分に行おうという意思が感じられない。また、学科別の教官に指導されてはあまり参考にならないのではないだろうか。まだまだ改善の余地がある。

●履修登録等について

- ・4、5月時点で後期授業のオリエンテーションが行われていないにも関わらず、後期科目をその時点で履修登録させるのは学生にとって非常に不便である。4,5月時点で後期授業のオリエンテーションを行うか、後期科目の履修登録を後期にずらす等の改善がなされるべきである。
- ・履修登録システムに関して学生側の不満・要望が多いにも関わらず、現状維持との回答が多いのに疑問が残る。大学側はこれを真摯に受け止め、改善する義務がある。
- ・ゼミナール選択について学生の不満が多い点は大学側の働きかけが足りない事の証明でもあるのだから、これをもっと重く受け止め、早急に改善すべきである。
- ・履修登録を(出来れば)学校のPCで出来るように改善して欲しい。

●大学設備について

- ・情報処理センターの印刷枚数の制限の仕方が良く分からない。月単位で印刷枚数を制限するのではなく、年単位で印刷枚数を制限する等の措置をとって欲しい。(前月使い切っていない印刷枚数を翌月に繰り越す等の措置でも可。)

- ・図書館の本が古すぎる。分野によっては数年でその内容が著しく変化してしまうものもある。古すぎる本を置いていても役に立たないし、学生の勉学の参考にならない。改善して欲しい。
- ・誰も使用していない施設・教室に暖房がついていたりすることがよくある。エネルギーの無駄だと思うので、改善した方が良い。(教官が授業終了後に責任を持って電気・暖房等を消す等。)
- ・大学の設備に関する不満は殆ど受け入れられていない。必要があるからこのように要求するのであって、大学側はこれを考慮する必要がある。

●アンケートの公表の仕方について

- ・質問の対象としているものがわかりづらい。改善すべきである。
- ・全体的に見にくい。表などをもっと活用して見やすいように改善すべきである。

●その他

- ・全体的に教官への不満が目立っていたようである。授業改善のためのアンケートで、毎年学生より改善を求められる教官はいるはずである。それにも関わらずその教官の講義内容・講義態度に変化が現れたように感じられない。教官には学生の不満を教授に真摯に受け止めて欲しい。
- ・今回の範囲外ではあるが、キャップ制に対する意見が多かったのが気になった。これを参考に学校側は今後の授業方針を考えて行って欲しい。
- ・学生側の率直な意見が如実に出ている結果だと思う。これに対して学校側が結果を真摯に受け止め、より真摯に改善に取り組むべきである。
- ・路上駐車が多い。改善して欲しい。